■著者紹介

二宮　周平（にのみや　しゅうへい）

【略　歴】

1951年5月27日　神奈川県横浜市生まれ、後、愛媛県松山市で育つ
1979年3月　大阪大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
1979年4月　松山商科大学経営学部専任講師、81年、助教授
1985年4月　立命館大学法学部助教授、87年、教授
2009年4月～2012年3月　立命館大学法学部長、学校法人立命館常任理事
2015年4月～2017年3月　立命館大学図書館長
2017年3月　立命館大学定年退職、同名誉教授
2017年4月　立命館大学特任教授、22年4月、立命館大学法科大学院授業担当講師（26年3月まで）
法学博士（大阪大学）

【主　著】

単著『事実婚の現代的課題』（日本評論社、1990）
『事実婚の判例総合解説』（信山社、2006）
『新版　戸籍と人権』（解放出版社、2006）
『家族と法』（岩波新書、2007）
『家族法〔第6版〕』（新世社、2024）
共著（榊原富士子）『離婚判例ガイド〔第3版〕』（有斐閣、2015）
編著『面会交流支援の方法と課題――別居、離婚後の親子へのサポートを目指して』（法律文化社、2017）
『性のあり方の多様性――一人ひとりのセクシュアリティが大切にされる社会を目指して』（日本評論社、2017）
『新注釈民法（17）親族（1）』（有斐閣、2017）
『離婚事件の合意解決と家事調停の機能――韓国、台湾、日本の比較を通じて』（日本加除出版、2018）
『LGBTQの家族形成支援――生殖補助医療・養子＆里親による〔第2版〕』（信山社、2023）
『子どもの権利保障と親の離婚』（信山社、2023）
共編著（渡辺惺之）『離婚紛争の合意による解決と子の意思の尊重』（日本加除出版、2014）
（渡辺惺之）『子どもと離婚――合意解決と履行の支援』（信山社、2016）
（風間孝）『家族の変容と法制度の再構築――ジェンダー／セクシュアリティ／子どもの視点から』（法律文化社、2022）
編集代表『現代家族法講座第1巻～第5巻』（日本評論社、2020～2021）